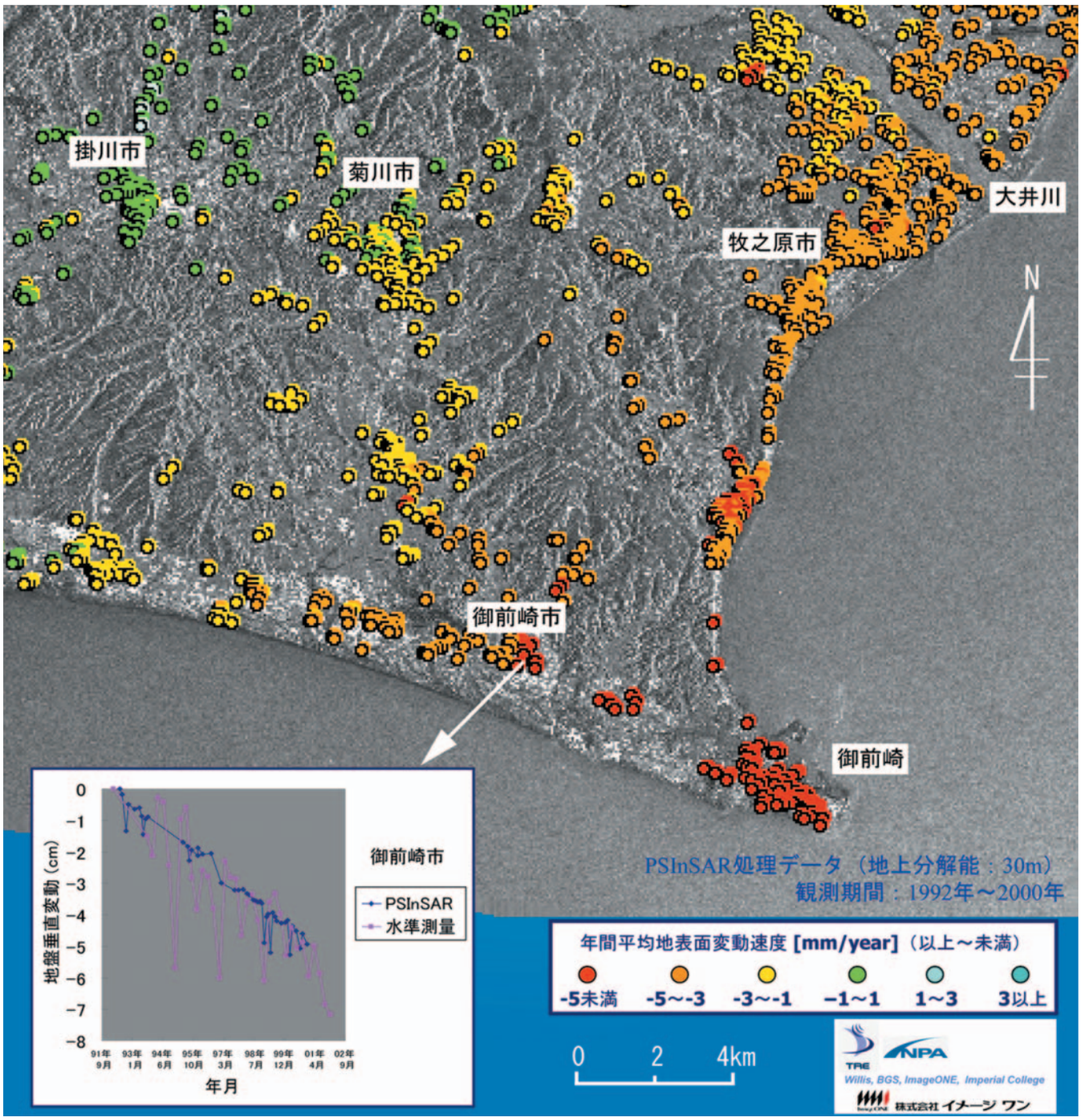
PSInSAR技術による地表面変動の計測（2）－御前崎市周辺－

データ提供：株式会社イメージワン
データ編集：東京理科大学･国土情報工学研究会

下図は静岡県御前崎市周辺における「年間平均地表面変動速度（mm／year）、1992年～2000年」を画像化したものです。前掲の画像と同様に人工衛星ERS（1号、2号）によって観測されたSARデータを使用しています。御前崎を中心とした地域が赤色に発色しており、この動きは地表面の沈降に対応するとの研究報告があります。左下のグラフは、御前崎市旧浜岡町における水準測量とPSInSAR処理による地盤の垂直変動量を時系列比較したものです。これらの差については今後の研究が待たれるところですが、東海地震の誘因となるプレートの沈み込みなどを衛星データから推定できる可能性を秘めていると言えます。PSInSAR技術は、今後の我が国における地震予知支援策の一つとして、一石を投じることになるかもしれません。

注）本誌の画像は、著作権法により保護されており、「ESA Earth Observation Market Development Programme , Developing earthquake risk assessment markets for EO-derived land motion measurement products」プロジェクトにおけるPSInSAR処理事例を編集したものです。無断で転載、複写することは禁止されています。